

第5章 3つの柱を支える重要な教育活動

1 キャリア教育の推進

(1) 「キャリア教育」とは

ア 「キャリア教育＝職場体験活動」ではありません

キャリア教育は、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることをとおして、キャリア発達を促す教育」と定義されています。自分らしい生き方をするために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていくことができるよう一人ひとりのキャリア発達を支援し、必要な能力や態度を育てることがキャリア教育です。

イ 自分らしい生き方を実現するための力とは

キャリア教育で育てる能力や態度は、「基礎的・汎用的能力」と呼ばれています。自分の役割を果たすための基礎となり、どのような仕事に就いても必ず役に立つ能力のことです。新潟県や本市は、これに「郷土愛」を加えて重点的に取り組むことにより、キャリア教育を充実・発展させることとしています。^{*1}

本市ではこれを受けて、次の5つの態度や能力を育てていきます。

(◆は郷土愛 ◇は基礎的・汎用的能力)

◆郷土愛 (郷土への愛着と誇り・貢献する態度)

- ・郷土に愛着と誇りをもち、進んで交流や貢献しようとする態度

グローバル化が進む今日、世界のどこで活躍しようとも、「自分の原点はふるさと糸魚川にある」という意識を育むことが必要です。

◇かかわる力 (人間関係形成・社会形成能力)

- ・社会の中で生活し、仕事をしていく上で基礎となる力

あいさつや場に応じた言葉遣いなどの言葉によるコミュニケーション力、他者の個性を理解する力、よりよい人間関係を築く力、他者と協働できる力など

◇自分を見つめる力 (自己理解・自己管理能力)

- ・「やればできる」と考えて行動できる力

自分の個性を自覚し、よさを伸ばせる力、主体的に活動する力、自分で決めたことに責任をもつ力、困難に対しこらえる力、ストレスに気づき解消する力など

◇やり抜く力 (課題対応能力)

- ・従来の考えや方法にとらわれずに物事を前に進めていくための力

行わなければならないことに確実に取り組む力、課題や問題に対しよりよい方法などを見つける力、困難な状況でも解決に向けて努力できる力など

^{*1}キャリア教育「新潟っ子プラン」より (新潟県教育委員会)

◇夢をおこす力（キャリアプランニング能力）

- ・社会人・職業人として生涯に渡って必要な力

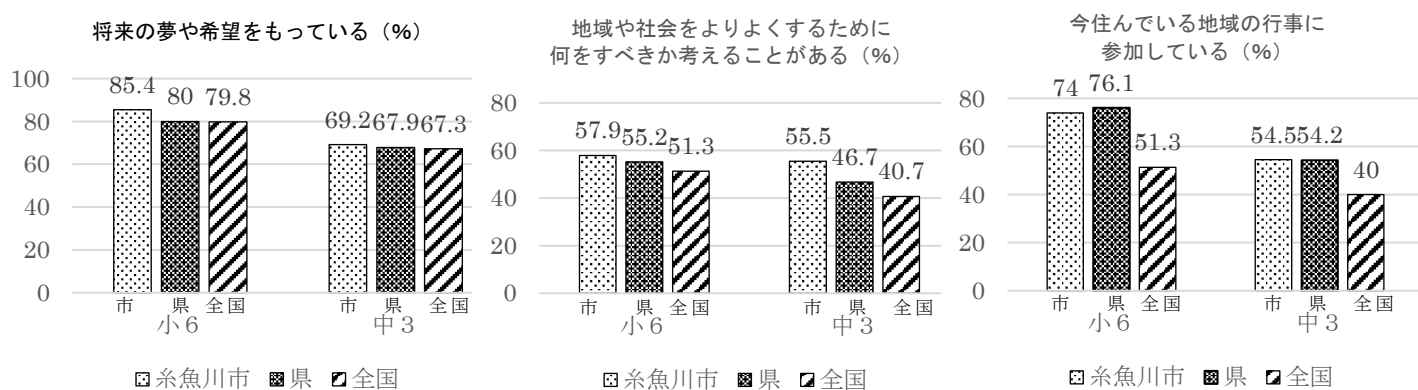
学ぶこと・働くことの意義や役割を理解する力、社会人や職業人としてのプラン（将来設計）を描く力、職業と自分の適性を調整することができる力など

ウ どんな場面でキャリア教育を行うのか

園や学校に、「キャリア教育」という特別の時間があるわけではありません。計画に基づき、全ての教育活動を横断的に扱い、子どもたちの「郷土愛」と「基礎的・汎用的能力」を育てます。その際に重要となるのが、家庭や地域との共通理解と協力体制の構築です。

(2) 現状と課題

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果



平成31年度の全国学力・学習状況調査の中学3年生の質問紙調査では、「地域の行事への参加」や「地域や社会への関心」などで肯定的回答が全国を上回り、「将来の夢や目標」については、全国を下回る結果となりました。

令和4年度の同調査では、いずれの項目も全国を上回っており、ふるさと糸魚川への愛着は育っているものと考えられます。

「地域の子どもは地域全体で育てる」ことは、最終的に本市のこれからの地域づくりにつながります。それは、地域に愛情・愛着をもった子どもたちが、変わらぬ想いをもち、夢を抱きながら地域を考え、地域を育てていくからです。その中で、地域に貢献するという意識をもった子どもたちを育てていくことが大切です。

また、文部科学省では、高等学校教育において、社会で自立的に活動していく力「学力の3要素」*2をバランスよく育むことが必要だとしています。近年の国際化、情報化、多様化の急速な進展に伴う社会構造の変革に対応するため、新たな価値を創造していく力が必要となるからです。今後、地域の企業や団体と学校の連携・協働で、高校生が地域の諸課題を探究できる機会を

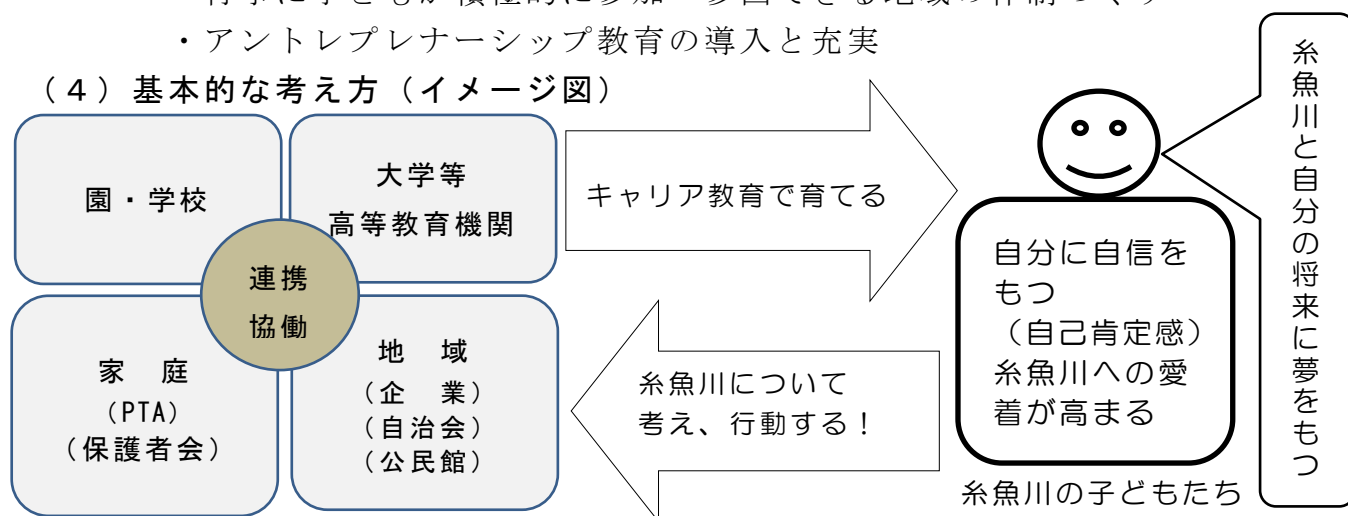
*2学力の3要素：①知識、技能の確実な取得 ②（①を基にした）思考力・判断力・表現力 ③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

提供し、地域への興味や関心を深め、体験と実践を伴った探究的な学びを進めていくことが重要です。また、起業家精神や起業家的な資質・能力を有する人材を育成する、アントレプレナーシップ教育^{*3}の視点も取り入れて充実させていく必要があります。

(3) 令和9年度の目標

- 糸魚川の子どもたちが自分に自信をもち、糸魚川への愛着が高まる。
 - ・各学年が取り組む内容や時期、教科などを示した中学校区単位での糸魚川市キャリア教育推進プランによる実践
 - ・キャリア・パスポート^{*4}による学びの履歴の蓄積
 - ・小学校の職場見学学習、中学校の職場体験学習、キャリア教育イベントの充実
 - ・園、小・中・特別支援学校、高等学校が連携した教育活動の充実
 - ・高等学校におけるインターンシップ^{*5}の充実、デュアルシステム^{*6}の構築
 - ・高等学校と地域の多様な主体（企業・行政など）の連携・協働による、地域での学習機会の充実（高校魅力化コーディネーターの活用）
 - ・職場見学・職場体験・インターンシップの市内受入企業の拡大
 - ・行事に子どもが積極的に参加・参画できる地域の体制づくり
 - ・アントレプレナーシップ教育の導入と充実

(4) 基本的な考え方（イメージ図）



(5) 指導の重点

- 家庭・園 … 子どもの基本的な生活習慣の確立
- 地 域 … 子どもと人や文化との出会いやかかわりの支援
- 学 校 … 自分の将来に夢をもち、将来設計ができる子どもの育成

^{*3}アントレプレナーシップ教育：チャレンジ精神、創造性などの起業家精神、情報収集・分析力、判断力、リーダーシップなどを有する人材を育成する教育

^{*4}キャリア・パスポート：児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育にかかわる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにしたポートフォリオ（記録用のファイル）

^{*5}インターンシップ：比較的短い期間の就業体験により、勤労観や職業観などを育てる活動のこと

^{*6}デュアルシステム：企業内での実習を学校の教育課程で行うもの

(○…ねらい ・…実践例)

		幼稚園・保育園	
年 齢		0歳～3歳 【乳児期～幼児期前期】	4歳～6歳 【幼児期後期】
育てる 態度・能力		基本的信頼・自立性の発達の支援	自立性・自主性の発達の支援
◆ 郷 土 愛	家庭	○ふるさととふれあおう ・地域を散策しよう (糸魚川に浸ろう)	○ふるさとに愛着をもたせよう ・地域を散策しよう (糸魚川に浸ろう)
	園・ 学校	・自然にふれよう	・自然の中で楽しもう
◇ か か わ る 力	家庭	○コミュニケーション力を育てよう ・話しかけよう、会話をしよう (家庭・園)	○コミュニケーション力を育てよう ・日常生活で、親子でふれあおう ・集団生活で友だちとふれあおう ・地域活動で地域の人とふれあおう
	園・ 学校	・地域活動に参加しよう ・食事中はメディアから離れよう	・食事中はメディアから離れよう
◇ み つ め る 力	家庭	○相手の心を感じる子に育てよう ・話しかけよう、会話をしよう ・ほめよう ・スキンシップをとろう (愛着形成)	○相手の心を感じる子に育てよう ・約束を守らせよう (ダメなものはダメ)
	園・ 学校		・ほめよう ・集団行動で社会のルールを身に付けさせよう
◇ や り 抜 く 力	家庭	○あきらめない心を育てよう ・話しかけよう、会話をしよう ・ほめよう ・自分で最後までやらせよう	○あきらめない心を育てよう ・自分で最後までやらせよう ・ほめよう ・集団の中での競争から、努力の大切さを経験させよう
	園・ 学校		
◇ 夢 を お こ す 力	家庭	○想像力を育てよう ・話しかけよう、会話をしよう ・ほめよう ・本を読み聞かせよう	○想像力を育てよう ・話しかけよう、会話をしよう ・興味をもつものに共感しよう ・いろいろな所に連れて行こう
	園・ 学校		

家庭での教育（一緒にふれあおう）
・同世代の集団生活・地域活動の実施

(○…ねらい ・…実践例)

		小 学 校	
年 齢		7 歳～9 歳	10 歳～12 歳
		【学童期前期（小1～3年生）】	【学童期後期（小4～6年生）】
育てる 態度・能力		勤勉性の発達の支援（前期）	勤勉性の発達の支援（後期）
◆ 郷 土 愛	家庭	○かかわりをとおして、ふるさとの誇りを伝えよう ・家庭行事や地域行事で地域の人や場所にたくさんかかわりをもたせ、地域を好きにさせよう	
	地域		
	園・ 学校	○ふるさとが好きで、ふるさとのよいところを言える子に育てる ・地域の好きなところやよいところを見つけさせる	・地域の自然や人に愛着をもたせる
◇ か か わ る 力	家庭	○気持ちを素直に言える子に育てよう ・気持ちや考えを話させ、子どもの話に耳を傾けよう ・家庭での役割（炊事などの手伝いなど）を決めよう	
	地域	○地域の絆を実感できる子に育てよう ・あいさつ運動や地域行事などのさまざまな機会、子どもたちに声をかけよう	
	園・ 学校	○仲間と協力する楽しさを感じさせる ・友だちと協力させる	○仲間と協調して考える力を育てる ・意見を聞き、自分の考えを伝えさせる
◇ み つ め る 力	家庭	○子どもの話を聞き、役割をもたせ、自己肯定感を高めよう ・対話の中で長所をたくさんほめよう	
	地域		
	園・ 学校	○自分の特徴に気付き、よいところを伸ばそうとする子に育てる ・自分のよさや得意なことに気付かせる	・やりたいことや向いていることを選ばせる
◇ や り 抜 く 力	家庭	○結果よりも意欲や態度を大切にしよう ・家庭での役割（家事など）や地域での役割を決め、挑戦させる機会をつくらう ・難しいことにも挑戦し、最後までがんばろうとしたことをほめよう	
	地域		
	園・ 学校	○やりぬく喜びが分かる子に育てる ・任された活動を忘れずにさせる	・任された活動に責任をもって取り組ませる
◇ 夢 を お こ す 力	家庭	○親としての生き方、地域の様々な人の生き方を伝えよう ・親として、人生の先輩として、仕事のやりがいや大切さを語りかけよう ○見学や体験により、興味や知識を広げよう ・視野を広げる外出や体験活動、読書をしよう	
	地域		
	園・ 学校	○夢を自分のこととして考える子に育てる ・社会のたくさんの仕事を知らせる	○人とつながり、「働く」を考える子に育てる ・仕事や人と出会う機会をつくる

(○…ねらい ・…実践例)

		中 学 校	高 等 学 校
年 齢		13 歳～15 歳	16 歳～18 歳
		【思春期前期（中学生）】	【思春期後期（高校生）】
育てる 態度・能力		同一性の発達への支援（前期）	同一性の発達への支援（後期）
◆ 郷 土 愛	家庭	○行事や祭り、伝統芸能を楽しませよう ・行事や祭り、伝統芸能への参加や体験をさせよう ・地域のすばらしさや昔の体験を伝えよう ・イベントなどへ参画させよう	
	地域		
	園・ 学校	○ふるさとを知り、文化・伝統を体験させる ・ジオパーク学習や地域貢献活動を行う	○ふるさとの産業特性を理解させる ・地域に貢献できることを考えさせる
◇ か か わ る 力	家庭	○返事、あいさつ、マナー、時間厳守、家事などの手伝いをきちんと行わせよう ・家庭の外でのマナーをしっかりとつけよう ・家事の手伝いをさせよう	
	地域	○行事での役割を達成させよう ・行事での役割を与えよう ・地域の大人が指導や声かけを行おう	
	園・ 学校	○異なる意見を受け入れながら、自分の考えをしっかりと伝えさせる	○他者の意見を的確に理解し、自分の考えをしっかりと伝えさせる
◇ み つ め る 力	家庭	○家庭での立場や自分のよいところを知らせよう ・手伝いをさせよう ・家族で語ろう	○子どもの現状を把握しよう ・保護者面談などに積極的に参加しよう
	地域	○行事での役割を達成させよう ・行事の役割を与えよう	○地域の意見を伝えよう ・子どもと進んで交流しよう
	園・ 学校	○自分の特徴を知り、自分を大切にする子に育てる	○自分の特徴を知り、自分や他者を大切に する子に育てる
◇ や り 抜 く 力	家庭	○保護者や家族の働く姿を見せよう ・将来について家族で語ろう	○努力したことをほめよう ・結果ではなく、努力したことをほめよう
	地域	○職業人としての立場、人生の先輩の立場から助言をしよう ・職場見学、職場体験に協力しよう	・就業を視野に入れた職場体験、インターンシップに協力しよう
	園・ 学校	○自分に与えられた仕事に、責任をもって取り組む子に育てる ・学級活動、生徒会活動、部活動などへの積極的な参加を促す ・職場体験などへの積極的な参加を促す	
◇ 夢 を お こ す 力	家庭	○家族と職業への夢をもたせよう ・子どもの将来について話しあおう	・具体的な進路に向けた話しあいを充実させよう
	地域	○職場体験などに対し、夢や目標が見つけれられるように協力しよう ・機会に応じ、職業人としての思いを語ろう	
	園・ 学校	○職業人としての将来を考えさせる ・職場体験や夢に向かって努力している人の話から、自分の将来に夢をもたせる	○将来の夢をもたせ、自分の一生について展望させる(学校の特色を生かした産学連携の取組による企業・就業体験) ○実践場面で活用できる語学力を育成する

2 ジオパーク学習の推進

(1) 現状と課題

① ジオパーク学習^{*1}の現状

○ジオパークにかかわる体験活動や地域づくりを大切にした取組

- ・家庭では保護者と野外活動を楽しみ、自然に関する感性を培っています。
- ・園では、年間をとおして遊びの舞台として地元のジオエリアにかかわっています。石に名前があることを知り、石を使った工作で、石に親しむ活動を行う園もあります。
- ・小・中学校では、各教科などの学習において、地元のジオエリアや人々の生き方に学ぶ活動、ふるさとのよさを発信する活動が行われています。ジオパーク学習交流会を通じて互いの学びを共有し、理解を深めています。
- ・高等学校では、ジオパークの魅力や自然環境のよさを見つめ、その保全に向け意識を高めています。また、ジオパークからの食やジオツーリズム^{*2}の提案、県外の高等学校と連携した防災学習、ジオパークとSDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）について学び、課題を発見していく取組などが各高等学校で行われています。

○糸魚川市、各地域や公民館などの取組

- ・本市では、ジオパーク学習を支援するために、小学校3・4年生、5・6年生向けの理科学習副読本や社会科学習副読本、「ピックアップ授業プラン」^{*3}、糸魚川の自然遺産や歴史遺産をまとめた資料集も刊行し、活用を推進しています。この他、子どもたちが自然に親しむ「わくわく探検隊」活動を継続的に行っています。
- ・各地域や公民館では、地元のジオエリアを活用した地域づくりや防災訓練に取り組んだり、ジオエリアを巡る活動を積極的に推進したりしています。

② 今後の課題

○家族ぐるみの自然体験活動からジオパーク学習への意欲の醸成

○園・小学校・中学校・高等学校での体系立ったより積極的なジオパーク学習の推進及び教材・実践例の共有並びに教職員の積極的な研修会への参加

○地域施設のさらなる活用

フォッサマグナミュージアムや長者ヶ原考古館、キターレなどを活用し、施設に在籍している学芸員や担当者と連携しながら、園・学校で学習を進めます。

○家庭、園・学校、地域による連携・協働の充実

各園・小学校・中学校・高等学校の取組が、それぞれの園・学校の範囲にとどまっています。園・学校でのジオパーク学習への支援に加え、家族でジオエリアに

^{*1} ジオパーク学習：園や学校、家庭などでジオエリア（ジオパークの見所となる場所）に存じる地域資源、または、ジオエリアに関係する糸魚川市の教育資源（ひと、もの、こと）を学習材とした取組。理科教育や安全・防災教育、SDGs（環境分野等）なども含め、教科・教育活動に関連・取込みさせ、横断的に実施する

^{*2} ジオツーリズム：地形・地質に興味や関心をもち、それについて学びを深める観光

^{*3} ピックアップ授業プラン：「フォッサマグナ」「糸魚川ー静岡構造線」「糸魚川市の東西の大地のつくりの違いと特徴」「国石ヒスイの生成」について、市内児童生徒が共通して学ぶ学習内容としてまとめたもの

出かけたり、地域でジオパークの活動に積極的に参加したりといった市民ぐるみの取組も必要です。

- SDGsやESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）とのかかわりを意識したジオパーク学習を、園・学校でSDGsカードゲーム（制作：一般社団法人イマココラボ）などを通じて推進します。

（2）令和9年度の目標

＜ジオパーク学習において育てる力は＞

体験・学習活動をとおして、ふるさと糸魚川への愛着や誇りの醸成と、グローバルな視点・課題解決の視点・持続可能な発展の視点などの見方・考え方を育てることで

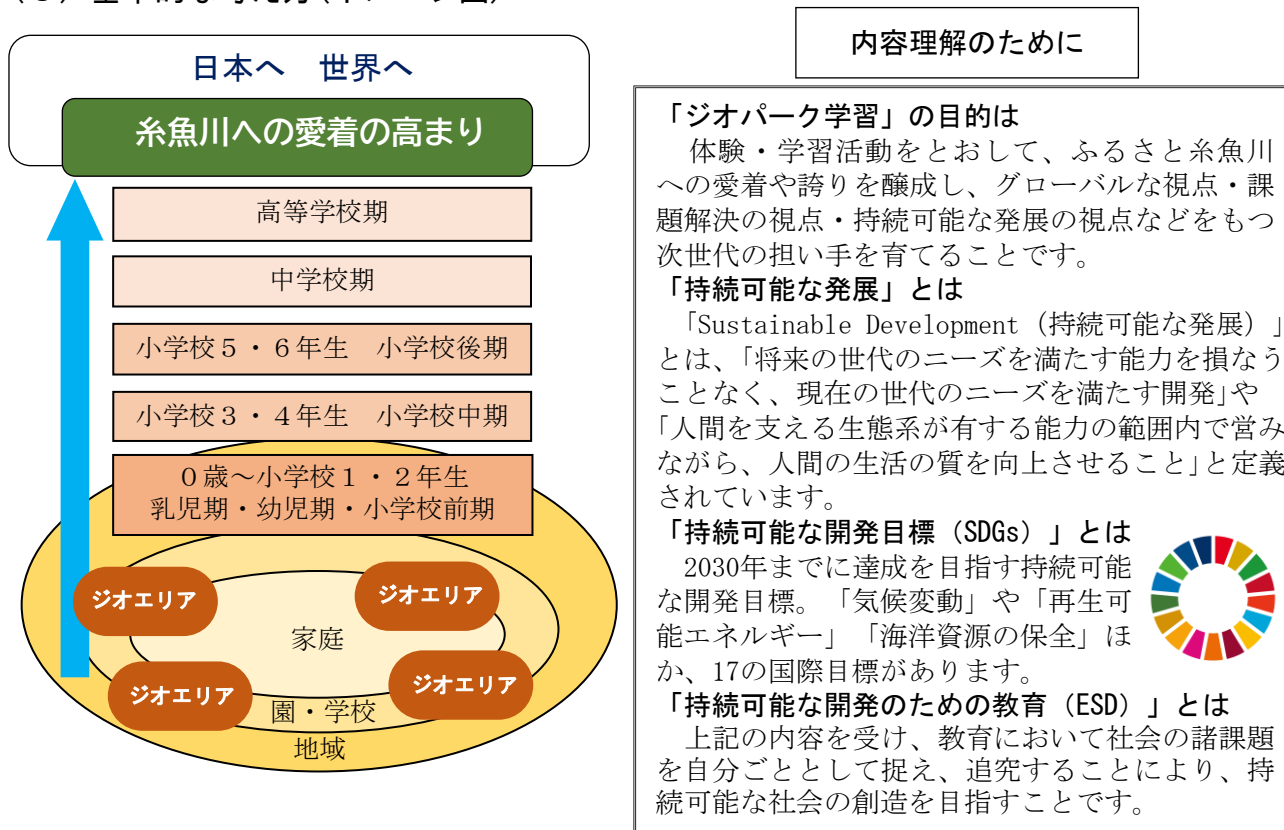
◇具体的な目標：ふるさと糸魚川をよく知り、ふるさとを愛する子どもを育てる。

◇家庭の目標：家族が様々な機会をとおして、親子がジオエリアで学習したり、紹介したり保全したりする活動にかかわり、糸魚川への愛着を高める。

◇園・学校の目標：「ピックアップ授業プラン」などをもとに、身近なジオエリアを教材とした指導計画を作成し、それに基づいた継続的な学習活動の実践をとおして、ふるさと糸魚川に関心をもち、探究し、保全し、発信し活用できる次世代を担う子どもを育てる。

◇地域の目標：家庭、園・学校が取り組むジオパーク学習を支援したり、地域の伝統行事の保護・伝承を牽引したりして、地域づくりを推進する。

（3）基本的な考え方(イメージ図)



（4）取組の方向

① 園・小学校・中学校・高等学校での体系立ったジオパーク学習の推進

「ふるさと糸魚川への愛着」は、糸魚川で育ち学ぶ子どもが、豊かな体験を繰

り返すことで育まれていきます。「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク」に認定された糸魚川の地は、子どもたちがふるさとの価値とすばらしさを学ぶ最適な教材と言えます。園・学校での体系立ったジオパーク学習の推進のために、「ピックアップ授業プラン」などを活用しながら次の3点を大切にします。

- | |
|---|
| ① 園・学校で学ぶ内容の整理と共通学習内容の明確化
② 発達期に応じた一貫して育む資質・能力の明確化
③ 効果的に学び、資質・能力を育てるための方法の工夫 |
|---|

この基本計画では、ジオパークを学ぶ子どもの発達を「乳児期・幼児期・小学校前期」「小学校中期」「小学校後期」「中学校期」「高等学校期」の5つの面からとらえます。そして、各教科などの学習を中心として学ぶ内容を整理します。

また、0歳から18歳までの子どもに、ジオパーク学習をとおしてふるさと糸魚川への愛着を育むため、育てる資質・能力を、「糸魚川の自然遺産や歴史的遺産への関心」「ジオパークを探究し、保全し、発信し、活用する力」「他者に自分の思いを伝える力」の3つとします。園から高等学校へと発達段階に応じて学ぶことを基本とします。

② 家庭、園・学校、地域の連携・協働による協働学習の充実

家庭、園・学校、地域の連携を充実させるために、「ふるさと糸魚川への愛着を育む」というねらいのもと、「それぞれの役割を明確にする」「それぞれのニーズに応じた相互支援体制を確立する」の2点を大切にし、お互いのよさを生かした協働学習の充実に取り組んでいきます。基本計画では、家庭や地域が園・学校での子どもの発達段階と成長に応じてどのような支援が可能となるのか具体的な方向を示しました。

(5) 発達段階での指導の重点

ジオパーク学習を進めるに当たり、子どもの発達段階とそれぞれの期での指導・支援の重点を次のように整理しました。

◇0歳～小学校1・2年生 【乳児期・幼児期・小学校前期】

保護者や身近な大人と共に行動しながら、身近な生き物や草花など自然のよさを感じるとともに、諸感覚でかかわる活動に興味や関心をもつようにする。

◇小学校3・4年生 【小学校中期】

自分の興味や関心からやってみたいことを見だし、学校周辺のジオエリアの自然環境や歴史的環境から、次第に調べる範囲を校区内外に広げながら、自らかかわることができるようにする。

◇小学校5・6年生 【小学校後期】

各教科などの学習で、市内のジオエリアの特徴をとらえたり、自然や文化にかかわる人の思いや願いについて調べたりして、事実からその要因や背景を考えたり、自分の考えを明らかにしたりすることができるようにする。

◇中学生 【中学校期】

糸魚川の大地の成因や動植物の特徴、環境にかかわる人々の姿から、自然、歴史、文化について探究し、持続可能な発展のために自分の考えを明らかにすることができるようにする。

◇高校生 【高等学校期】

それぞれの学校の特長を生かし、ジオパークに見られる自然や社会の事象をより深く調べ、要因や背景について論理的に考えるとともに、糸魚川や世界の将来について考え、創造性を発揮できるようにする。

(指導の重点 ○…ねらい …実践例)

0歳～乳児期・幼児期・小学校前期～8歳	
地元ジオエリア体験期	
家庭	<p>四季の自然や動植物と親しむ</p> <p>親子一緒に行動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親子一緒に自然に親しむ機会をつくろう <ul style="list-style-type: none"> ・海や川、山の景色や自然に親しむ機会をつくろう ○親子で地元ジオエリアに出かけ遊びや散策を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・親子で園や家庭でのジオ体験活動に参加しよう ・親子で草花や石で遊んでみよう
園・学校（主な教科学習等の単元）	<p>四季の自然や動植物と親しむ</p> <p>家族で地元ジオエリアを訪ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ジオエリアを家族で訪ね散策を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・地元ジオエリアの散策の計画を一緒に立てたり、子どもと海で泳いだり、石を拾ったりしながらジオパークのよさを楽しもう ○親子でジオパーク巡りへ参加しよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域を知る機会をとらえ、市内のジオエリアを訪ねよう
園・学校（主な教科学習等の単元）	<p>自然の生き物や植物への興味・関心の喚起</p> <p>保育士・教諭と一緒に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園・学校周辺に出かけ、遊びや散策を楽しむ ○園・学校周辺で動植物を見たり、親しんだりする活動を行う <ul style="list-style-type: none"> ・動植物などに親しみ、季節を感じながらのびのびと自然を楽しむ ・子どもの親しみやすいところから、関心を広げようにする（海・石・草花・生き物など） ○草花や石を遊びや教育活動などに取り入れ、ふるさと糸魚川への愛着を育む
地域	<p>興味・関心からの自然へのかかわり</p> <p>行動範囲の広がり仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生【生活科】「あそびにいこうよ」 ○四季を通して、地元ジオエリアにかかわる <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使ってかかわり、絵や工作で表現し、楽しかったことを友達や家族に伝える 2年生【生活科】「まちたんけん」 「あの人に会いたいな」 ○まち探検で身近な人々にかかわり、インタビューを行ったり、生き物や植物について調べたりする ○自然へのかかわりを発表する（自然体験発表会など）
園・学校（主な教科学習等の単元）	<p>園への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ジオパークでの活動について園や学校、家庭に情報提供を行おう ○現地での活動では、子どもの興味・関心に応じて、地元ジオエリアの生き物や草花に親しませよう
地域	<p>学校のニーズの把握と情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校と情報交換を行いながらニーズを把握し、現地での指導に役立てよう <ul style="list-style-type: none"> ・地元ジオエリアでの生き物や見所スポットを紹介しよう ・安全面や見学・観察に当たってのマナーなどについて、学校と連携し、指導しよう

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	9歳～小学校中期（小3・4年生）～10歳	11歳～小学校後期（小5・6年生）～12歳
	ジオエリア探索期	ジオパーク学習期
家庭	<p>家族で楽しむジオパーク</p> <p>○親子で自然や文化・歴史遺産を訪問する機会をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークを巡ったり地域・学校でのジオパーク学習に積極的に参加したりしよう <p>○親子でジオパークについて学習したり、ジオパーク検定に挑戦したりしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でのジオパーク学習を話題にして親子で話しあおう ・子どもの興味・関心に応じて参加する活動や散策する場所を選ぼう 	
園・学校 (主な教科学習等の単元)	<p>自ら環境へかかわる子どもへの支援</p> <p>知的好奇心の喚起と相手意識を明確にした発信</p> <p>3年生</p> <p>【理 科】「春の生き物」「植物を育てよう」 「こん虫のかんさつ」</p> <p>【社会科】「わたしたちのまちと市」「はたらく人とわたしたちの暮らし」「わたしたちの市の歩み」</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のジオエリア探索 <p>4年生</p> <p>【理 科】「あたたかくなると」「暑くなると」「すずしくなると」「寒くなると」</p> <p>【社会科】「自然災害にそなえるまちづくり」(防災教育) 「地域で受けつがれてきたもの」 「昔から今へと続くまちづくり」</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のジオエリア探索 ・糸魚川ユネスコ世界ジオパーク学習交流会 ・糸魚川の自然の探究（科学研究発表会など） 	<p>自ら環境へかかわる子どもへの支援</p> <p>ジオパークにかかわる人々への思いの深まりと発信</p> <p>5年生</p> <p>【理 科】「魚のたんじょう」「流れる水のはたらき」「川と災害」(防災教育)</p> <p>【社会科】「日本の国土とわたしたちの暮らし」「国土の自然とともに生きる」</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りの取材・地域食材の調査・発信 <p>6年生</p> <p>【理 科】「生き物どうしのかかわり」「大地のつくり」「糸魚川の岩石とフォッサマグナ」「ジオパークのまとめ学習」「変わり続ける大地」(防災教育) 「地球に生きる」</p> <p>【社会科】「日本の歴史」「世界の中の日本」 「ともに生きる暮らしと政治」</p> <p>【外国語科】・わたしの住むジオエリアの紹介</p> <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く人々の取材 ・市外からみた糸魚川市の学習 ・糸魚川の自然の探究（科学研究発表会など） ・SDGsカードゲームを使ったジオパーク学習の推進
地域	<p>学校のニーズの把握と情報交換</p> <p>○ジオパーク学習にかかわる情報提供と学習活動への支援をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地ガイドやゲストティーチャーとしての講話、現地での子どもの見学への支援をしよう ・学校のニーズについて把握し、現地での指導に役立てよう 	

(指導の重点 ○…ねらい …実践例)

	13歳～中学校期～15歳	16歳～高等学校期～18歳
	ジオパーク研究期	
家庭	子どものジオパーク学習への関心と自主的な地域参加への支援 ○学校行事に参加、協力しよう ○ジオパーク巡りに参加したり、ボランティア体験を奨励したりしよう ○親子でジオパーク検定に挑戦しよう	
	ジオパーク・社会や自然を学ぶ子どもへの支援 ジオパークについての主張の形成 【社会科】 2年生「身近な地域」「日本の地形」（防災教育） 3年生「地方自治ウォッチング」（発展学習・総合学習としても可能） ○糸魚川の魅力や人々の働き、ジオパークの実際や未来への夢を調べ、まとめ、発信する 【理科】 1年生「植物の生活と種類」「大地の成り立ちと変化」「変成岩とヒスイの生成過程」（ピックアップ授業プラン） 2年生「動物の生活と生物の変遷」 3年生「自然と人間」（防災教育） ○ジオパークに見られる自然的事象についてより深く探究し、その価値を探る 【総合的な学習の時間】（ジオパークを題材とした探究活動とキャリア教育・防災教育と関連させた活動） ○ピックアップ授業プランを活用し、糸魚川の自然や歴史、文化などについて探究し、自然を保全しながら持続可能な社会づくりへの自分の考えや生き方をまとめ表現する ・糸魚川の自然の探究（科学研究発表会など） ・SDGsカードゲームを使ったジオパーク学習の推進 【外国語科】 ・ジオパークを英文で紹介する活動 ・国際交流活動の推進（中学生海外派遣研修など）	
園・学校 （主な教科学習等の単元）	【教科・科目・部活動など】 ○ジオパークに見られる自然・社会的事象についてより深く探究し、その価値を探る ○ジオパークの保全活動や価値の活用を図り、地域づくりを推進する ○交流活動の推進、海外派遣研修、全国大会参加など	
	【糸魚川市内3高等学校の探究活動の取組】 糸魚川高等学校 ・地域の諸課題にかかわり、SDGsを始めとする探究活動を推進する 糸魚川白嶺高等学校 ・まちづくりと防災にかかわり、課題探究活動を推進する 海洋高等学校 ・地域振興にかかわり、水産資源管理、製造・販売などの探究活動を推進する	
地域	専門性を生かした情報提供や地元企業との連携 ○ジオパーク学習にかかわる情報提供し、学習活動を支援しよう ・専門性を生かした現地ガイドやゲストティーチャーとして学習を支援しよう ・探究活動へ助言したり、発表の場を提供したりしよう ○国内外のジオパーク認定地と連携し、交流活動を推進しよう ・様々な情報発信やPR活動を行おう	

3 特別支援教育の推進

(1) 現状と課題

平成26年1月の「障害者の権利に関する条約」批准に基づき、「障害者基本法」や「障害者差別解消法」等関連法の整備が進みました。特別支援教育においても、インクルーシブ教育システム構築の取組が進展しつつあり、障がいの有無にかかわらず誰もが認めあい支えあう共生社会の形成につながってきています。

この間、本市においても特別支援教育の理念の浸透や子ども一貫教育方針及び基本計画の周知によって、理解や認識が高まりつつあります。乳・幼児期では、障がいの早期発見・早期支援に結び付き、相談者数や療育機関の利用者数が増加傾向にあります。「発達支援センターめだか園」「幼児ことばの相談室」の支援体制も整備され、多くの幼児が指導を受けています。学校教育期においても、学びの場の整備や学校全体での支援体制など、多様な体制の充実が図られています。通常学級在籍の児童生徒も、通級指導教室の新増設などにより、個の課題に応じた指導を受ける体制が整備されつつあります。加えて、関係者間では「とぎれない支援」を大切な理念として共有し、丁寧な引継ぎが実践されています。

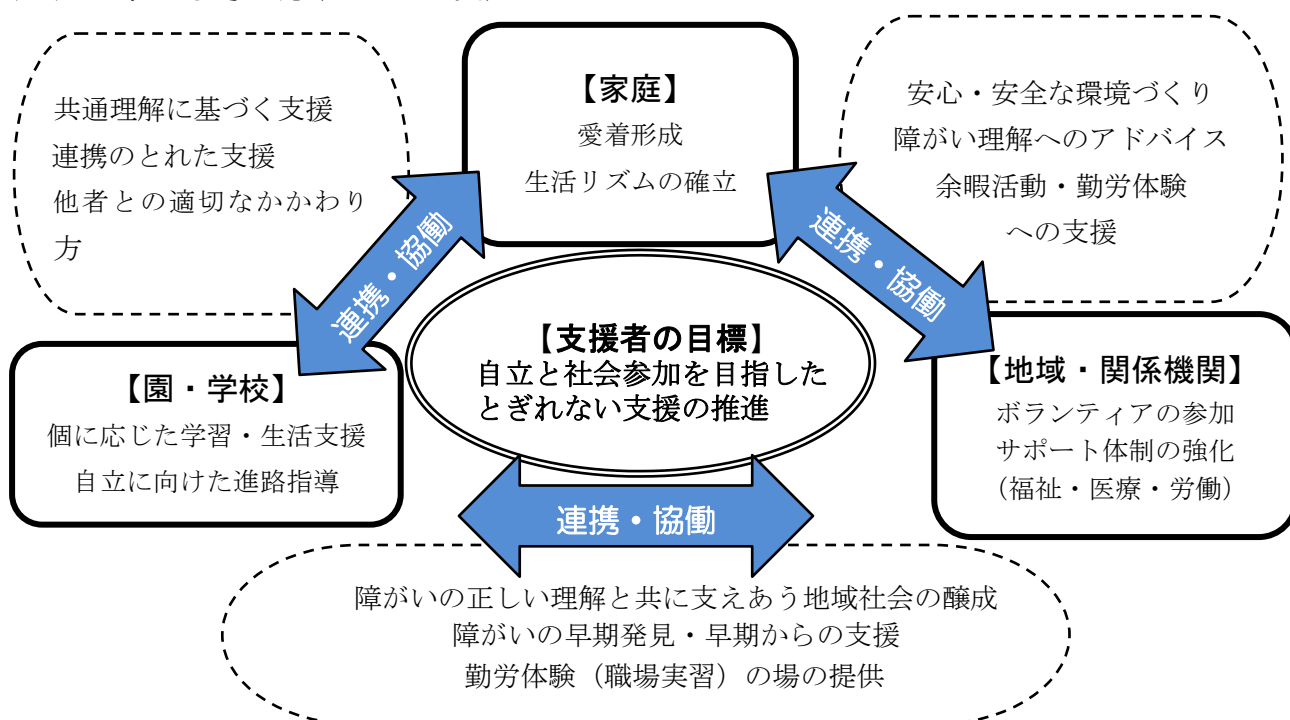
一方で、多様な教育的ニーズのある子どもの数は増加傾向にあります。相談に係る担当者の増員や支援体制の拡充が求められています。また、引継ぎのツールとして期待される「相談支援ファイル」については、十分に活用できていない状況もあることから、有効活用についての検討を重ねる必要があります。

多様な教育的ニーズのある子どもの自立と社会参加のためには、家庭、園・学校、地域、関係機関が協働しながら、実効性ある支援を推進していくことが重要となります。

(2) 令和9年度の目標

○自立と社会参加を目指したとぎれない支援の推進

(3) 基本的な考え方(イメージ図)



(4) 取組の方向

①自立と社会参加を目指したライフステージごとの支援

それぞれのライフステージで中核的な役割を担う、保健師、相談支援専門員、特別支援教育コーディネーターを中心に、多様な教育的ニーズのある子どもについて、きめ細やかな支援に努めます。「相談支援ファイル」や「個別の教育支援計画」を基に、個の実態や特性を踏まえて支援内容を検討し、保護者と連携し適切な指導を進めます。さらに校内委員会で支援方策の共通理解を図り、全校体制での支援を推進します。

②とぎれない支援を実現するための支援や方策

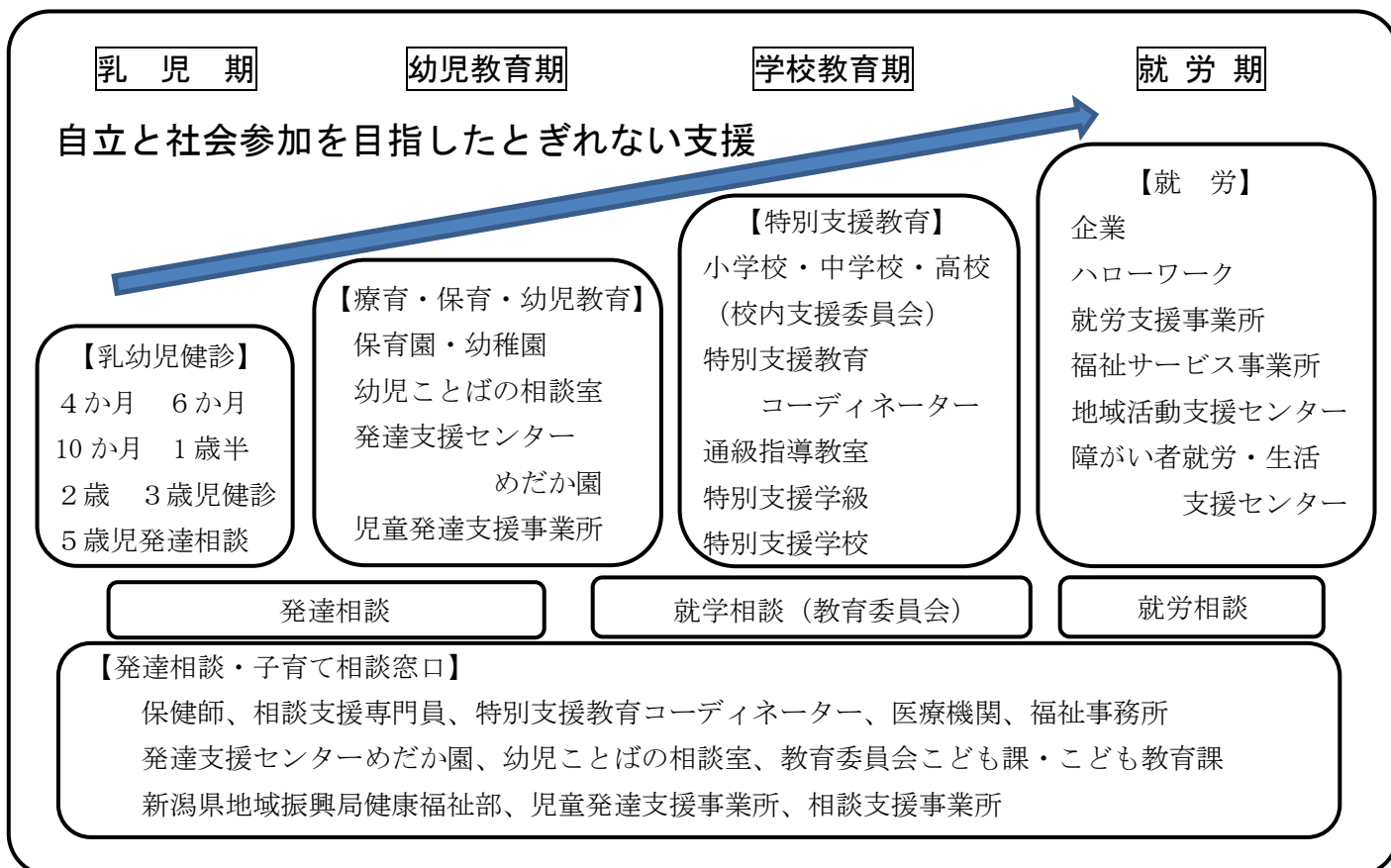
ライフステージの進行時においては、それぞれの校種間双方の関係者が「相談支援ファイル」や、「個別の教育支援計画」などを活用して、丁寧な情報共有を行い支援のギャップ解消に努めます。幼児教育期から学校教育期の移行時は、きめ細やかな就学相談を行い、教育的ニーズを踏まえた適切な学びの場の提供につなげていきます。また、地域とも積極的に情報共有し、卒業後のサポート体制の構築に努めます。

③障がいのある子どもや保護者の不安の解消と、支援体制の拡充

教育委員会こども課を中核とした相談・支援体制の構築と、保護者や関係者への支援体制の周知をとおして、保護者の不安の解消を図ります。早期から、子どもやその家庭環境など個に応じた支援やペアレント・トレーニングを行い、保護者が適切な対応を学ぶことにより子どもの行動改善につなげます。

また、相談や支援に係る人員の増員や、多様なニーズに応える支援体制の拡充に努めていきます。

(5) ライフステージにおける発達支援



①乳児期・幼児教育期

特別な教育的ニーズのある子どもの支援については、早期の気づき、早期支援が必要です。幼児期は人格の基盤を形成する非常に大切な時期であり、身辺自立や社会性、コミュニケーション能力が身に付くときです。幼児期から子どもやその家庭環境など個に応じた支援を行うことにより、適切な行動様式や生活スキルの修得を促すことができます。また、保護者を対象としたペアレント・トレーニングを行い、保護者が適切な対応を学ぶことにより子どもの行動改善につなげます。あわせて、「発達支援センターめだか園」「幼児ことばの相談室」の機能をさらに充実させ、早期の発達支援を行い小学校につなげていきます。

②学校教育期

＜移行期はきめ細やかな引継ぎを＞

幼児教育から小学校へ、小学校から中学校へ、一人ひとりの子どもの特性や情報を確実につなぐことが重要です。子ども一貫教育の基本理念に基づき、移行期はよりきめ細やかな引継ぎを目指します。個に応じ「相談支援ファイル」による引継ぎや、関係者の丁寧な引継ぎから「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に結び付けていきます。また学校教育入学時には、保護者のニーズにより就学予定先の事前学校参観や面談を行い、安心して入学できる環境を整えていきます。

＜全校体制で推進する特別支援教育の充実＞

全ての小・中学校で、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業を推進していきます。特別支援学級と通常学級が連携を強化し、共に活動する機会を増やしていきます。今後も特別支援教育コーディネーターを中核に校内支援委員会を機能させ、家庭・地域・関連機関との共通理解を基盤とした支援を行っていきます。

＜就労期に向けた進路指導の充実＞

小学校高学年から中学校にかけては、心身ともに大きく成長する時期です。この時期から将来の自立を見据え、心の安定と生活能力の向上を図っていくことが大切であり、キャリア教育と絡めた学校見学や職場体験など、早期の進路指導が重要です。関係者が子どもの障がいの特性や支援ニーズについて共通理解した上で、校種を超えて息の長い継続的な働きかけや実践を積み重ねていきます。

③学校教育期・就労期

就労が自立と社会参加の基盤となります。「働く」ことの意義や将来の夢をもたせ、勤労への意欲を高め、働く喜びにつなげ、勤労観・職業観を養うことが重要です。

そのため、高等学校・高等部教育期の子どもには、キャリア教育の視点から、「人間関係形成能力」や「将来設計能力」、「意思決定能力」などの能力を、発達段階や障がいの特性を考慮しながら身に付けさせていきます。また、作業学習や職場実習などを充実させ、子どもにあった就労を支援していきます。

障がい者が働きやすい地域や職場の環境整備が重要であり、教育、福祉、雇用の関係機関が連携し、子どもの希望や能力に適した就労を目指す必要があります。就労後も、本人や家庭、専門機関、医療機関などの関係機関とともに、継続性のある支援体制の中、社会的自立をサポートしていきます。

(○…ねらい ・…実践例)

家庭→幼稚園・保育園		幼稚園・保育園→小学校
家庭	<p>○愛着形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップを大切にしよう ・読み聞かせや語りかけを多く取り入れよう ・ふれあい遊びを通じて人とのかかわりをもとう 	<p>○障がいに対する気付きと受け止め</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性を理解し対応しよう ・「ほめて育てる」習慣を大切にしよう ・相談支援ファイルを継続的に活用しよう <p>○子どもの障がい理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性を理解し、就学先をみんなで考えよう
	<p>○心身の基本づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起きの習慣を身に付けさせ、しっかり朝ごはんを食べさせよう ・バランスのとれた食事をさせよう ・ゲームやメディアとのかかわりを減らし、体を動かす遊びを体験させよう 	
園・学校	<p>○愛着形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への助言とサポートを行う ・遊びをとおした友だちや家族とのかかわり方を支援する 	<p>○障がいの理解に向けた啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援機関（学校、医療、福祉）との連携を推奨する ・子どもの特性を理解した対応研修の機会を設定する ・ペアレント・トレーニングなどへの参加を働きかける ・幼児が、友だち、職員、家族との正しいかかわり方を学ぶように、適切な機会をとらえ指導する
	<p>○社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや職員とのかかわりをとおした社会性を育成する 	<p>○関係する学校との情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や交流をする ・発達支援センターめだか園、幼稚園・保育園、学校との連携・協力を図る ・園と学校が、互いに支えあう環境をつくる
	<p>○健康な体づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に生活リズムの定着を働きかける ・給食をとおした食習慣を形成する ・運動遊びをとおした体づくりを推進する 	
地域	<p>○障がいや障がい者への正しい理解と地域の一員として支えあう地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもと保護者を温かく見守ろう <p>○安全・安心な環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園など遊び場を整備しよう ・地域全体で子どもを見守ろう 	
関係機関	<p>○障がいの早期発見と早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診時を活用し、障がいの早期発見に努める ・障がいの気付きや適切な支援方法などの情報を提供する ・発達相談や療育相談、発達支援センターめだか園などから情報の提供を受け、積極的な周知や関係機関の情報を提供する 	

(○…ねらい ・…実践例)

	小学校→中学校	中学校→高等学校
家庭	<p>○愛着形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほめて育てる」姿勢を大切にし、子どもに自信をつけさせよう ・会話を大切にし、親子で障がいに対する理解を深めよう ・子どもの言葉を真摯に受け止め、寄り添おう 	<p>○自己肯定感を高めるかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに役割を与え、できたらほめることで、達成感を感じさせよう <p>○情緒の安定を図る手立ての習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に適したストレスへの適切な対処法を身に付けさせよう ・精神的な安定に向け、趣味や余暇活動を充実させよう
	<p>○生活能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を積み重ね、日常生活に必要なスキルを身に付けさせよう (家事、スケジュールや金銭の管理、交通機関の利用など) ・社会生活で必要となるルールやマナーを着実に向上させよう (あいさつ、返事、食事、言葉遣い、支援の求め方など) 	
	<p>○成長期の体づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい食習慣を確立させよう ・生活リズムを着実に整えさせよう ・体の発達について語りかけよう 	<p>○第二次性徴への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理能力を育てよう (食事、生活、健康、異性への関心など)
学校	<p>○個の特性を踏まえた学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びのためのICTをはじめとする支援ツールを活用する ・他者とのかかわりの中での学びや、協働的な学びを充実させる ・教育支援計画や個別の指導計画を活用し、個に合わせた学習指導を工夫する ・学校見学や職場体験、福祉施設との交流など、将来の社会的自立を見据えた計画的な進路指導を行う 	
	<p>○心の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの理解を進める、自己有用感を高めるための取組を推進する <p>○自己肯定感を高める支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に適したストレス対処法の習得に向け、支援する <p>○ソーシャルスキルの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブな環境づくりを推進する 	
	<p>○成長期を意識した健康づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図的、積極的な運動を取り入れる ・バランスのとれた食事を指導する ・発達段階に応じた性教育を実施する 	<p>○第二次性徴を意識した健康づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持に必要な知識・態度を育成する (食事、生活、体力向上、疾病予防など) ・発達段階に応じた性教育を実施する
<p>○保護者や関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や教育支援計画を活用し保護者と連携を図る ・中学校、関連機関への確実な引継ぎを行う ・保護者が心の安定を図る対応方法などの情報を提供する ・医療機関への情報提供や同行受診を行う 		
地域	<p>○障がいや障がい者への正しい理解と地域の一員として支えあう地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを正しく理解し、障害のある子や保護者を温かく見守り支えあう意識を醸成しよう ・子どもの社会性・道徳性育成を目指し、あいさつ運動など学校の教育活動に協力しよう ・社会体育や地域行事などへ参加を積極的に呼びかけ、地域の一員として活動を支援しよう 	
関係機関	<p>○障がい者を差別することのない地域社会の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者差別解消法」の理解を促進する <p>○本人と保護者へのサポート体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労や社会的自立に向けた場を設定する ・障がいに対する理解の啓発及び地域で育てるための情報を提供する ・余暇の支援や、福祉サービスの充実(社会的自立に向けての支援)を図る <p>○地域連携と福祉サービスの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のための福祉サービスの情報を提供する ・公共施設の積極的利用に向けた情報を提供する ・職場体験などの就労に向けた進路指導により、理解を深め啓発を図る 	

(○…ねらい ・…実践例)

	高等学校→卒業・就労	就労後
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高めるかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・本人と障がいへの共通理解を図り、家庭生活や職業生活に適応できるよう目標を設定しよう ・家庭における役割を積極的に与え、役立ちを認め、自己肯定感を高めよう ○情緒の安定を図るための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活に、進んで元気よく取り組もうとする態度を育てよう ・精神的な安定に向け、快適に過ごす趣味をもたせ、余暇活動を充実させよう ・ネット社会への対応などを一緒に考える時間をつくろう ○社会的自立を前提とした適切な支援 <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみの習慣を確実に身に付けさせよう ・規則正しい生活リズムづくりとバランスのとれた食事を定着させよう ・身体の成長に関する悩みや健康管理、服薬管理などについて一緒に考えよう ○社会人として必要な資質の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつやマナー、言葉遣い、人間関係の応対などを着実に身に付けさせよう ・金銭教育（計画的な購入、金銭管理など）を確実に行動 ・福祉などに関する制度やサービスの情報収集、利用ができるように支援しよう 	
学校 ・ 職場 ・ 施設	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的自立を支援する指導 <ul style="list-style-type: none"> ・将来への夢や希望などの目標を設定させ、目標に向かい努力事項を実践させ指導・称賛を行う ・自己の長所と課題などや障がい理解とストレスへの対処法を習得させる指導を実践する ・社会人としてのソーシャルスキル習得や規範意識を向上させる指導を行う ・他の人への適切なかかわり方や、周囲への支援の求め方を指導する ・情報社会（携帯電話やインターネットなどのSNS）との正しいかかわり方を指導する 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体での障がい理解の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で研修を推進し適切に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体での障がい理解の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で研修を推進し適切に対応する
	<ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての資質の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を図り、持久力や根気を養う取組や指導を実践する ・生活習慣、運動習慣、疾病予防などでの健康的な心と身体づくりへの指導を行う ・性（異性とのかかわり方）に対し、正しい理解への指導を行う 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○社会生活に向けた各種スキルの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル習得の場を設ける ・就労先で必要な技能や資質を習得させる ・卒業生の助言を聞く機会を設定する ・交通機関や公共施設の利用時のマナーを指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会生活に向けた各種スキルの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル習得の場を設ける ・就労先で必要な技能や資質を習得させる ・卒業生の助言を聞く機会を設定する ・交通機関や公共施設の利用時のマナーを指導する
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○勤労観や職業観の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・働く喜びを味わわせる勤労体験を設定し、団体の一員として役割遂行や協力の心を養う ・実習などでの振り返りや自分の考え・体験に基づき、よりよい選択ができるように導く 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者を差別することのない地域社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者差別解消法」の理解と地域の一員として支えあう意識を醸成しよう ・社会体育や地域行事、サークル活動などへの参加を積極的に声がけし、受け入れよう ・地域の一員として、地域行事などへの参加を積極的に声がけし、受け入れよう ・災害時などの危機対応時の支援をしよう 	
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者を差別することのない地域社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者差別解消法」及び「障害者雇用促進法」の理解と障がい者雇用を促進する ○関係機関のサポート体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・行政による健康相談や、社会体育や地域行事・サークル活動などによる体力向上を支援する ・心身の悩みを受け止め支援する組織や施設を整備する（行政、社協、NPOなど） ○障がい者が働きやすい職場づくりや共生社会形成への努力 <ul style="list-style-type: none"> ・企業に対し、障がい者の就労への合理的配慮（支障を改善するための措置）の提供を周知する ・障がい者が働くにあたっての合理的配慮の提供義務の研修を設定し実施する ・職場や地域で「障害者差別解消法」及び「障害者雇用促進法」などの学習会を実施する 	

基本計画評価のための第2回市民アンケート調査結果 (主なものを抜粋)

◆実施時期 令和4年11月1日～11月30日

◆対象 (単位：人)

保護者	回答	R4	271/300	H30	263/301
地域住民 (一般)	回答		56/110		87/150
地域住民 (関係者)	回答		144/190		149/182
学校職員	回答		250/300		291/308
		計	721/900 (回答率 80%)	計	790/941 (回答率 84%)

■保護者	R 4 評価	H30 評価
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一貫教育への認知度①が依然課題である。 愛着形成への取組② あいさつなどしつけ面への意識③ 子育てに関する意識は高い状況を維持している。 個性の理解や尊重④は高い状況であるものの微減 将来の自立への支援⑤ 子育てへの不安⑥ 子育てへのストレス⑦ 学習面への心配⑧ 肯定的な回答が半数を下回るなど、心配や不安が増加したり改善しない状況があったりする。 	① 49% ② 80% ③ 93% ④ 93% ⑤ 47% ⑥ 42% ⑦ 33% ⑧ 48%	48% 78% 91% 95% 46% 40% 29% 45%
■地域住民 (一般)	R 4 評価	H30 評価
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一貫教育への認知度①が依然課題である。 学校と地域の連携は自分には関係がない②が減り、必要性が浸透してきた。 地域でのあいさつ運動への協力③ 行事など地域活動への参加④ 多少改善している面もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響でかかわる機会が減少した。 	① 30% ② 25% ③ 18% ④ 23%	34% 35% 21% 17%
■地域住民 (関係者)	R 4 評価	H30 評価
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一貫教育の認知度①は高い。 学校、家庭、地域の連携に対する必要性② 高い必要感を維持している。 連携に対して関係がない③ 否定する割合が高く、連携の必要性、切実さを感じている。 行事など地域活動への参加④ 新型コロナウイルス感染症の影響でかかわる機会が減少している。 	① 79% ② 88% ③ 73% ④ 49%	86% 91% 92% 62%

■学校職員	R 4 評価	H30 評価
・子ども一貫教育への認知度①が高い水準を維持している。	① 80%	88%
・あいさつ②	② 92%	94%
・規範意識の高揚③	③ 93%	93%
・いじめ根絶④	④ 93%	94%
・人権尊重⑤	⑤ 88%	85%
・生活リズムの定着⑥	⑥ 78%	76%
・アウトメディア⑦	⑦ 70%	67%
・キャリア教育⑧	⑧ 63%	61%
・ジオパーク学習⑨	⑨ 61%	51%
いづれの項目も意識、取組状況が充実してきている。		
・地域連携への必要感を感じている⑩	⑩ 87%	92%
・どこと連携したらよいか分からない⑪	⑪ 40%	29%
・新型コロナウイルス感染症流行下での連携の難しさや多忙感⑫	⑫ 61%	67%
連携の必要性を感じているものの、問題点を感じている学校職員もいる。		

◆評価結果を基にした、第3期基本計画策定において留意した事項

- ◎前回同様、「子ども一貫教育」に対する地域住民（一般）、保護者の認知度が低い。情報発信、啓発の方法を工夫し、地域住民（一般）、保護者の関心、協力・協働意欲を高める。
- ◎学校運営協議会や地域学校協働活動など、地域連携の手段を活用し、地域の課題解決への貢献を目指し、家庭、学校、地域協働による一貫教育を推進する。
- ◎ジオパーク学習、キャリア教育など、地域の人材、施設などをさらに活用して、「わがいといがわ」を愛する子どもの育成に努める。
- ◎今日的課題、時代のニーズを意識した取組を盛り込む。（SDGs、ICT教育、ダイバーシティ教育、ウェルビーイング、探究活動【高校魅力化事業】、いじめ・不登校対策、学力の向上、アウトメディア、愛着形成、地域に根差したスポーツ・文化振興）

◆第3期基本計画策定後のスケジュール（確実な普及と着実な実践のために）

- ◎第3期子ども一貫教育基本計画発刊 2024(R6)年2月
- ◎子ども一貫教育基本計画ガイドマップの発刊・配付 4月
- ◎子ども一貫教育基本計画についての説明、啓発及び実践 4月～
 - ・園及び学校における会議及び研修 ・コミュニティ・スクールの会議 ・公民館の活動
 - ・PTA及び地区懇談会、地域の声を聴く会 ・教育懇談会 ・福祉団体の会議
 - ・民生委員・児童委員会議 ・産学官連携会議 ・青年会議所 ・庁内職員研修会
- ◎評価項目の検討とそれを基にした第1回調査の実施 2025(R7)年8～10月

評価と点検のために

1 評価の目的

本市における教育の現状と課題を把握するために、定期的に評価を行います。得られたデータをもとに、PDCAサイクル^{*1}により取組の方向や指導の重点の見直しを行い、よりよい基本計画に改善し、施策に生かしていきます。

2 評価方法

(1) 既存の方法を活用した評価

市民アンケートの他に、現在行っている様々な評価を活用し、本市の子どもたちの現状と課題を把握します。活用する評価は次のものです。

- ① 全国学力・学習状況調査やNRT標準学力検査の市全体の結果：【学力の実態】
- ② 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査：【基本的な生活習慣や自尊感情、家庭学習時間、郷土愛、学校生活満足度、授業改善の実態 など】
- ③ 学校評価における糸魚川市共通評価項目：【学校満足度、いじめ、家庭学習時間】
- ④ 親子保健計画評価アンケート：【生活リズム、メディア接触、親子のふれあい】
- ⑤ 体力テスト：【運動能力の実態】

(2) 基本計画評価のための市民アンケート調査

基本計画による家庭・園・学校、地域の3者それぞれの取組を振り返るために、次ページ以降の評価用紙を活用し、評価・集計を行います。

① アンケート調査の対象者

0歳～18歳までの保護者（抽出）

幼稚園、保育園・小学校・中学校・特別支援学校・高等学校の教員

学校運営協議会委員（コミュニティ・スクール委員）、地域学校協働活動推進員、各地区公民館、区長、その他の地域住民（抽出）

② 実施時期

第1回調査 令和8年8月～10月

第2回調査 令和12年8月～10月

③ 評価結果の活用について

評価結果は、こども教育課で集計し、評価結果を基にした成果と課題を次期基本計画で提示します。

^{*1}PDCAサイクル：プラン（Plan、計画）ドゥ（Do、実行）チェック（Check、評価）アクション（Action、改善）の4つの過程を行うことで、業務などの改善を行うこと

家庭の取組を振り返って（糸魚川市子ども一貫教育基本計画の評価として）

	0歳～3歳	4歳～6歳	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳
豊かな心	愛着形成	自己肯定感の育成	基本的な生活習慣 温かい絆づくり	基本的な生活習慣 温かい絆づくり	自立への支援 社会の一員の自覚	自立への支援 社会の一員の自覚
健やかな体	21:00までに寝る 朝食を毎日とる	21:00迄に寝る 朝食を毎日とる	睡眠9～11時間 朝食を毎日とる		睡眠8～10時間 朝食を毎日とる	
確かな学力	読み聞かせ	絵本の読み聞かせ	絵本の読書 学習習慣づくり	読書 学習習慣づくり	夢や目標に向かう意欲づけと励まし 学習習慣づくり	
キャリア教育	話しかけ・会話	コミュニケーション力育成	役割をもたせ、自己肯定感を育む 親・地域の思いを伝える		将来への夢を育む 返事、あいさつ、マナー、時間厳守 手伝いをきちんと行わせる	
ジオパーク学習	自然・動植物とふれあい	自然・動植物とふれあい	家族で楽しむジオパーク		ジオパーク学習への関心を高める 自主的な地域参加への支援	
特別支援教育	発達相談	発達相談	特別支援教育への正しい理解とかわり			

【評価尺度】（よくできた：4 概ねできた：3 やや不十分：2 不十分：1）

- 1 子どもと遊んだり、温かい声かけや、会話の時間を大切にしたりして、発達段階に応じて愛着形成に努めていますか。
- 2 スキンシップ、じゃれつき遊び、読み聞かせ、家族での対話など、発達段階に応じて、子どもとのかかわりを大切にしていますか。
- 3 おはよう、ありがとう、ごめんなさいなど、家庭内での明るいあいさつを、日常的に心がけていますか。
- 4 子どもが自ら考え、判断し、実行できるように導いていますか。
- 5 家庭内でのルールを決め、電子メディアを使わせていますか。
（電子メディアとは、ゲーム機、パソコン、スマートフォンなどをさします）
- 6 糸魚川の良さや素晴らしさを子どもたちに伝えたり、ジオパークとふれあう機会をつくったりしましたか。
- 7 子どもたちが家庭学習の時間を確保できるよう、環境づくりに取り組みましたか。
- 8 親子の会話の中で、未来や夢、働きがいについて語り、将来の自立について考える機会をつくりましたか。
- 9 子どもの個性や特性を理解し、必要に応じて、親、友人、知人、関係機関に相談していますか。

園・学校の取組を振り返って（糸魚川市子ども一貫教育基本計画の評価として）

	0歳～3歳	4歳～6歳	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳
豊かな心	一人一人を温かく受容 生活リズム改善 十分遊ばせる	あいさつ交流活動 善悪の気付き	礼儀・伝え合う力 規範意識判断力	礼儀・伝え合う力 自己肯定感	人間関係を築く力 人権尊重規範意識	人間関係を築く力 自由と責任
健やかな体	遊びからの学び 話しかける 会話する ほめる	生活リズムの改善 食育の推進 メディアとのかかわり方 体力づくりの推進				
確かな学力	最後までやらせる		学習習慣づくり 小学校生活への適応 中学校への接続		確実な学習習慣づくり	夢を見据えた確かな学力向上
キャリア教育		郷土愛、かかわる力、みつめる力、やり抜く力、夢をおこす力の育成				
ジオパーク学習	自然の生き物や植物への興味・関心の喚起		自ら環境へかかわる子どもへの支援		ジオパーク・社会・自然を学ぶ子への支援 ジオパークについての主張の形成	
特別支援教育	愛着形成 健康な体づくり 社会性の育成	障がい理解の啓発 関係校との情報交換	心の居場所づくり 自己肯定感を高める支援 ソーシャルスキルの指導 能力や特性に応じた指導			社会人としての自立支援 勤労観や職業観の育成

【評価尺度】（よくできた：4 概ねできた：3 やや不十分：2 不十分：1）

- 1 園・学校で、明るいあいさつや返事ができていますか。
- 2 いじめや差別を許さない、見逃さない、園・学校づくりができていますか。
- 3 規範意識や善悪の判断力、人権意識は子どもたちの中に育っていますか。
- 4 生活リズムや、早寝早起きおいしい朝ごはんの大切さを指導していますか。
- 5 電子メディアとの適切なかかわり方の指導に取り組んでいますか。
- 6 「学年×10分」（中学校は60分+学年×10分）を目安とした学習習慣づくりの取組はできていますか。
- 7 指導者として、キャリア教育を意識した取組を進めていますか。
- 8 身近なジオサイトを教材として学習活動を実践し、子どものふるさと糸魚川への愛着形成を進めていますか。
- 9 相談支援ファイルや個別の教育支援計画を作成し、活用していますか。

地域の取組を振り返って（糸魚川市子ども一貫教育基本計画の評価として）

	0歳～3歳	4歳～6歳	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳
豊かな心	子育ての文化の 伝承 安全安心の環境 づくり	子育てネットワ ークづくり	地域で育む子どもの社会性・道徳性 学校支援活動の推進・社会教育活動の充実			地域社会の一員 としての自覚と 責任をもたせよ う
健やかな体	地域みんなで育 てる ほめる、話しか ける、会話する	安全安心の環境づくり 子育て文化の伝承			安全安心の環境づくり 子育て文化の継承	
確かな学力		地域みんなで育てる				
キャリア教育		ほめる、話しか ける、会話する	かかわりを通して郷土の誇りを伝え るあいさつ運動、地域行事などの 声かけ		職場体験やインターンシップなどで夢 や目標がみつけれられるように協力する	
ジオパーク学習	園への協力	学校のニーズの把握と情報交換			専門性を生かした情報提供や地元企業 との連携	
特別支援教育	障がいの早期発 見・早期対応	障がいの早期発 見・早期対応	本人と保護者へのサポート体制づく り地域連携と福祉サービスの周知		障がい者を差別しない地域社会の形成 関係機関のサポート体制の確立 障がい者が働きやすい職場づくり	

【評価尺度】（よくできた：4 概ねできた：3 やや不十分：2 不十分：1）

- 1 ほめる、話しかける、会話するなど、コミュニケーション力を育む活動に、様々な機会を通して取り組みましたか。
- 2 安全パトロールの参加や、地域環境の点検・整備など、子どもの安全・安心な環境づくりに取り組みましたか。
- 3 学校応援隊やコミュニティ・スクールの要請に応じて、「学力向上」や「社会性や規範意識の育成」などの様々な教育支援活動に協力できましたか。
- 4 地域の文化や伝統を、子どもたちに伝承したり、継承したりする活動に参加したり、協力したりできましたか。
- 5 家庭・学校が取り組むジオパーク学習への支援や地域行事の推進に取り組みましたか。
- 6 地域でのあいさつ運動に参加したり、協力したりできましたか。
- 7 子どもの将来の夢を育むために、学校にゲストティーチャーとして協力したり、職場体験活動に参加協力したり、支援したりする活動に取り組みましたか。
- 8 障がい者について理解し、支援しながら地域で受け入れるよう努めていますか。

第3期 糸魚川市子ども一貫教育基本計画 策定委員会 委員

No.	所属及び役職等	氏名	所属の部会・班会等
1	上越教育大学 教授	釜田 聡	委員長
2	東海大学 特任教授	田中 統治	統括アドバイザー
3	中能生小学校 校長	若木 直弘	豊かな心
4	大野小学校 校長	有坂 一郎	豊かな心
5	磯部地区公民館 館長	久保田 幸利	健やかな体
6	西海小学校 校長	水澤 哲	副委員長 確かな学力
7	南能生小学校 校長	谷内 卓生	確かな学力
8	糸魚川東小学校 校長	岩月 高峰	健やかな体
9	糸魚川市PTA連絡協議会 会長	橋立 茂樹	健やかな体
10	おひさま保育園 園長	山本 裕美	健やかな体
11	青海中学校 校長	渡辺 徳彦	キャリア教育
12	下早川小学校 教頭	八木 千佳誉	キャリア教育
13	海洋高等学校 校長	中田 匠	キャリア教育
14	糸魚川雇用促進協議会	渡邊 誠司	キャリア教育
15	田沢小学校 校長	浅野 一清	ジオパーク学習
16	根知小学校 教頭	齋藤 雅彦	ジオパーク学習
17	ひすいの里総合学校 校長	長谷川 修	特別支援教育

第3期 糸魚川市子ども一貫教育基本計画 策定委員会 庁内委員

No.	課名	係名	役職名	氏名	部会・班会等
1	環境生活課	市民生活係	係長	山岸 由尚	豊かな心
2	福祉事務所	福祉サービス係	係長	仲谷 貴子	特別支援教育
3	こども課	管理係	主査	土沢 修栄	キャリア教育
4	こども課	親子健康係	主任保健師	金子 眞穂	健やかな体
5	こども課	西海保育園	園長	伊藤 一美	豊かな心
6	こども課	発達支援センター めだか園	園長	田中 麻美	特別支援教育
7	文化振興課	フォッサマグナ ミュージアム	学芸員	小河原 孝彦	ジオパーク学習
8	こども教育課	こども教育係	課長	古川 勝哉	全体
9	こども教育課	こども教育係	参事	小川 豊雄	キャリア教育
10	こども教育課	こども教育係	指導主事	植木 靖英	確かな学力 (ジオパーク学習)
11	こども教育課	こども教育係	指導主事	山下 太郎	豊かな心
12	こども教育課	こども教育係	嘱託指導主事	金子 浩子	特別支援教育
13	こども教育課	こども教育係	嘱託指導主事	小竹 厚	ジオパーク学習 (キャリア教育)
14	こども教育課	こども教育係	嘱託指導主事	須藤 里美	健やかな体
15	こども教育課	理科教育センター	次長	佐藤 弘	ジオパーク学習
16	こども教育課	庶務係	課長補佐	川原 隆行	庶務
17	こども教育課	庶務係	主事	原 ちなみ	庶務

第3期 糸魚川市子ども一貫教育基本計画

令和6年2月 策定

糸魚川市教育委員会事務局 こども教育課

〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号

Tel 025-552-1511 (代) Fax 025-552-8292

E-mail kokyo@city.itoigawa.lg.jp

URL <http://www.city.itoigawa.lg.jp/>

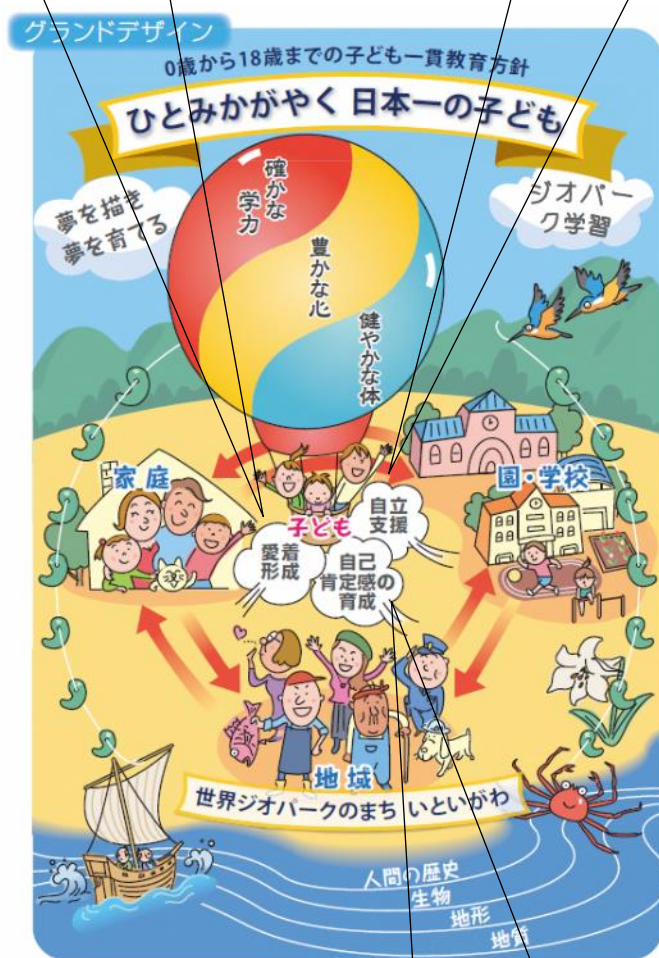
「子ども一貫教育方針」のグランドデザインを一層理解していただくために

○ 愛着形成

愛着形成とは、乳児が養育者に授乳されたり、抱かれるという身体の接触や、心の交流を通して、両者の間に情緒的な絆が形成されていくことです。

○ 自立支援

自立とは、他者に頼らずに自分一人で物事を判断し、実行することです。子どもの発達に応じた自立への指導と支援が必要となります。



○ 自己肯定感

自己肯定感とは、「自分が価値ある人間であり、自分の存在を大切に思う気持ち」です。